

理事会議事録

日時：1998年10月3日(土) 12時00分～13時00分

場所：山形大学教養教育1号館 会議室

出席者：奥田、岡村、定金、柴田一、田中、紀伊、尾中、加藤、有本、
沢、大橋、柴田晋、福島 出席者13名 欠席者2名

議事に先立ち署名人を選出

議長：奥田治之

署名人：柴田一成・田中培生

議事の経過及び結果

1. 前回(1998年7月4日)の理事会議事録が報告され、承認された。
2. 1998年秋季年会の報告が、加藤年会理事、柴田(晋)理事、沢教育理事、柴田(一)庶務理事よりなされ、今後改善すべき点などが議論された。
記者会見には6社約10名の報道関係者の出席があり、記者会見で紹介された4件とも何らかの形で報道された旨、報告された。
しかし、記者会見のやりかた、事前の資料の配布の仕方、記者会見以前に記者会見(予定の)内容の報道を認めるか否か、などに関して、今回、学会と報道関係者との間で少し混乱があり、記者会見を今後どのように運営していくかについて、今後の継続議題とすることとなった。
3. 新入会員(98年7月～9月分正会員17名)の承認がなされた。
4. 新旧理事の引継を、来年1月15日(金)の理事会で行なうことになった。
5. その他

- 日本学術会議会員の池内了氏より、下記のことからについて奥田理事長に協力要請があり、天文学会として協力することを承認した。

要請内容は、日本学術会議の特別委員会『女性科学者の環境改善の推進』の活動に関するもので、女性科学者をめぐる国際比較のためのデータ提供等である。

データ収集等は教育委員会が対応することとし、学術会議との連絡役は天文研連委員加藤理事(来期は天文学会教育委員)が勤めることになった。

- 西はりま天文台の黒田台長から、ペルー在住の石塚睦氏の要請を受け、ペルーに教育用望遠鏡を寄贈しようとする基金を募る運動を始めているが、天文学会も賛同団体として名を連ねて欲しい、との申し出があった。日本とペルーの友好の促進、および天文学の普及を図る観点からこの趣旨に賛同し、黒田氏の申し出を了承することになった。

- 天文学会が11月9日～10日のLMSA天文研連シンポジウムの共催団体となる旨、了承された。

- 来年度の内地留学奨学金への応募がゼロだったことが報告され、応募者を増やすためには内規を改善する必要があるということで、委員会より理事会へ内規改善の要望が出ている旨、紹介された。

種々議論ののち、この件は、次期理事会への継続議題とすることとなった。

1998年10月20日 社団法人 日本天文学会
議長：奥田治之